



株式会社有田屋

醤油造りの原点に戻ることは
上州の豊かな風土を守り
伝えていくことでした



安中市

住 所・・・安中市安中2-4-24
T E L・・・027-382-2121
U R L・・・<https://aritaya.com/>
代表者・・・湯浅 康毅
設 立・・・1832年3月31日
資本金・・・10,000千円
従業員・・・5名

WEBサイト



事業者紹介

当社は江戸後期の天保3年(1832年)に、中山道の宿場町として栄えた上州安中の美しい山々と、清らかな水が流れる碓氷川の豊かな風土と恵みによって、醤油醸造元として創業し、本年度192年目です。

当社の醤油醸造は創業以来、天然の常在菌(蔵付き酵母)の力だけで発酵・熟成させた天然醸造醤油造りを頑なに守っています。生産する醤油は、伝統醤油「丸大豆仕込天然醸造醤油」および「さいしこみ醤油」に特化しています。

醤油造りの原材料である大豆、小麦、塩は国産のものを中心に使用し、天然醸造法により最低2年かけて造り、素材・製法へのこだわりが上質な旨みに繋がっています。

経緯・背景

日本国内の食の多様化、少子高齢化、人口減少などの環境の変化により醤油の国内需要が減少し、当社の売上高も平成25年以降は減少傾向が続いています。一方足元では、希少価値の高い天然醸造醤油に着目していただき、消費者ニーズの変化に対応した加工品開発を行うことで回復傾向にあります。

このような経営環境の中「200年家業」に向けて、当社の課題を、①海外新規顧客の獲得、②国内新規顧客の獲得、③技術開発・新商品開発・人材育成として事業展開しています。

安中市の土地の風土・空気を取り入れた「あんなかテロワール型ものづくり」

具体的な取組・成果

当社は先代の英断により、かつて行っていた天然醸造法による醤油造りを復活することで業界内で生き残っていく方向に舵を切りました。この経営方針を更に進める形で、安中市の土地の風土・空気を最大限取り入れたものづくり「あんなかテロワール型ものづくり」によって天然醸造醤油をつくっております。

あんなかテロワール型の天然醸造醤油が確立されれば、安中市の1次産業(農業)、2次産業(醸造)、3次産業(販売・サービス)のいずれもが活性化でき、天然醸造醤油に地域性、ネットワーク強化、環境性が絡み合ったストーリーが備わることになります。そこで、国内販売のみならず海外販売に積極的にチャレンジすることで海外販売比率を高め、売上増加・利益率の向上を図っていきます。

具体的には、主に以下の工程を計画しています。

- (1) 醤油の主原料である大豆・小麦を安中市産とするための遊休農地・耕作放棄地の活用
- (2) 190年続く石蔵で自然の力だけの天然醸造法によって醤油を醸造
- (3) 信越本線(横川～軽井沢間)の碓氷トンネル内で醤油を熟成
- (4) 当社の石蔵に住み着く微生物(蔵付き酵母)の選抜
- (5) 当社の特許製法である醤油の燻製技術により安中地域に縁のある新たな製品の開発



●本事業の成功に向けて

- ・生産量増加への対応や製造体制の若返り、また国内外の営業力強化のため、人員採用等を強化しています。
- ・製造関係では、原材料の大豆・小麦においてかぶら大豆生産者協議会、醤油醸造において群馬県醤油味噌工業協同組合、秋間梅林観光協会から協力をいただきます。またトンネル内熟成等で公共施設を活用するため、行政関連からは安中市みりよく創出部観光課、安中市観光機構から協力をいただきます。
- ・群馬県産業技術センターから協力・支援をいただき、酵母の選抜や醤油の食味検査を行います。



当社にとってのSDGsビジョン

かぶら大豆生産者協議会の協力を得て、遊休農地・耕作放棄地を活用していきます。醤油造りの原料となる大豆と小麦を自然農法で栽培することとし、なたね、大豆、小麦で輪作を行うことで、豊かな土地を効率よく維持していきます。土作り(地中の微生物の復活)から行い、景観保存にも努めていきます。

今後の展望と求めるパートナー像

当社と志を共にする安中ベースの生産者、加工業者と連携した「あんなかテロワール協議会(仮称)」を立ち上げ、協議会活動をベースに、あんなかテロワールモデルのブランディングと海外でのプロモーション及び商談を行っていきます。



株式会社いけはた

環境に配慮した包装資材で 「売り手よし、買い手よし、世間よし、 未来よし」の四方よしを目指す



前橋市

住 所・・・前橋市五代町676-5

T E L・・・027-269-8181

U R L・・・http://www.e-ikehata.co.jp

代表者・・・池畠 健一

設 立・・・1958年7月1日

資本金・・・30,000千円

従業員・・・32名

WEBサイト



事業者紹介

当社は包装資材・店舗機材・衛生資材等10万種類以上の商品を取り扱い、自社物流によるスピーディーな配送を実現し、お客様の困りごとや課題を「包装資材」を通じて解決させていただくことを心掛けております。ISO9001認証（製品やサービスの品質向上）やおもてなし規格認証を取得することで、お客様、仕入先様、従業員の満足度向上に努めております。「売り手よし、買い手よし、世間よし、未来よし」の四方よしの考え方を大切にして、環境GS認定制度の取得や、環境配慮型製品の販売にも力を入れ、自然環境のこと、そしてより良い未来の地球のこと、そんなことをまじめに考える企業です。

経緯・背景

当社が取り扱うワンウェイの食品容器、レジ袋等は安価かつ衛生的で大量生産、大量消費の現在社会においては非常に便利で必要不可欠な商品です。ただ残念ながら使用後はプラスチックごみとなることが多く、海洋プラスチック問題やマイクロプラスチック問題がメディアで取り上げられる度に、石油由来の包装資材を主に販売している当社としては頭を痛めていました。多くの取り扱い先の容器製造メーカー、製袋メーカーも同じ問題を抱えている中、各社が環境配慮型の商品開発を進めています。当社としてはこうした環境配慮型商品に関するお客様への情報提供と販売を積極的に行っております。

植物性プラスチックを 25%使用したバイオマスレジ袋で 環境意識の高まりに対応

具体的な取組・成果

2020年7月1日からレジ袋の有料化が全国で義務付けられました。これはプラスチックごみによる環境汚染が深刻な問題となっていることを受けて、プラスチックの使用量を減らすことを目的としております。日本で流通しているレジ袋に使用されているプラスチックの使用量は国内で使用されているプラスチック全体の僅か2～3%程度と言われておりますが、当社は国民の環境意識が高まったこの時期から植物性プラスチックを25%使用したバイオマスレジ袋を提案紹介して販売することに積極的に取り組んでおります。100%石油由来の商品に比べて割高にもかかわらず、お客様の環境意識の高まりもあり、少しずつではありますが販売数量は増えてきております。

●環境にやさしい3つのポイント

- ①石油資源の節約
袋の一部にサトウキビ由来のポリエチレンを使用することで、石油資源を節約することができます。
- ②CO₂排出量の削減
植物は成長過程で大気中のCO₂を光合成によって吸収します。植物由来ポリエチレンは、従来の石油由来ポリエチレンのようにCO₂を一方向に排出せず循環させるため、CO₂排出量削減に役立ちます。
- ③従来の石油由来ポリエチレンと同等の品質
植物由来ポリエチレンも石油由来ポリエチレンと同じ「エチレン」から作られます。そのため、石油由来のポリエチレンと同等の品質になります。



環境GS（ぐんまスタンダード）
認定制度に認定されました。

また、惣菜等を入れるプラスチック容器についても、「生物資源を原料としたバイオマスプラスチックを一部使用した商品」を提案紹介して販売することに積極的に取り組んでおります。植物は燃やすとCO₂が発生しますが、植物の成長過程でCO₂を吸収するのでライフサイクル全体で見るとCO₂の排出と吸収は実質ゼロと考えることができます。当社は僅かかもしれませんが原料が植物のバイオマスプラスチックを使用した商品を提案紹介して販売することで、CO₂排出量低減に貢献します。

■バイオマスとは

生物資源から生まれた有機資源のこと。石油資源と違いリニューアブル（再生可能）な資源です。

■バイオマスプラスチックとは

生物資源を原料としたプラスチックのこと。現在は工業用のデントコーンやサトウキビの搾りかすなどの植物を主な原料としています。



当社にとってのSDGsビジョン

当社は国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた積極的な取組を行ってまいります。多くのプラスチック製品を扱う包装資材の卸売業だからこそできる使命と役割を認識して持続可能な社会の実現に向けて社員一同邁進していく所存です。

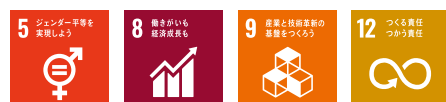
今後の展望と求めるパートナー像

環境に配慮した包装資材製造業様からの情報提供と環境に配慮した企業様との更なる取引を望みます。また、地域の自治体とも連携して食品包装資材を通じた循環型社会の実現を望みます。



岩佐工業株式会社

暮らしを豊かにするものづくりで 技術開発を促進、革新的技術導入で イノベーション創出へ



高崎市

住 所・・・高崎市足門町316番地2
T E L・・・027-372-2711
U R L・・・<https://www.iwasakk.jp/>
代表者・・・岩佐 慶一郎
設 立・・・1978年2月7日
資本金・・・20,000千円
従業員・・・38名

WEBサイト



事業者紹介

当社は1978年の創業以来、半導体、航空宇宙、電子、自動車、医療機器など幅広い分野における金属部品の設計・精密加工を担ってきました。80台以上の最新設備を活用し、特に単品加工に特化した多品種の試作開発や専用機部品に強みを持ち、多様なニーズに対応してきました。「暮らしを豊かにするものづくり」をミッションに掲げ、近年は取引先の高度な要求に応えるため、最新技術の導入と技術開発を推進し、2020年にはラボ機能を備えた新工場に移転。新たな価値創造を目指すサポーター・インダストリーです。

経緯・背景

ロボット等の最終製品の高性能化・多機能化が進展する中で、構成部品の加工ニーズも多様化・高度化しています。一方で、人手不足や優秀人材の確保難という問題に直面し、社員も会社ともに成長できる働きがいのある職場づくり、向上心高く技術革新にチャレンジできる組織づくりの必要性を痛感しました。特に女性活躍の推進が今後の企業成長において重要と捉え、多様な人材が活躍できる環境整備に着手。IDGs (Inner Development Goals) の考え方に基づき、従業員の内面的な成長を重視することで職場全体の活力を高めています。合わせてデジタル技術の活用で業務効率化を図り、革新的な技術導入によるイノベーションを促進しています。

ジェンダーレスの試みと デジタル技術活用の2本柱で 新たな価値創造へ

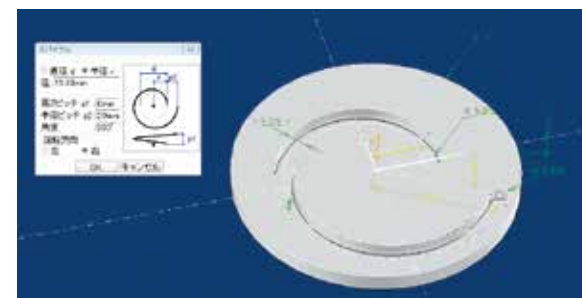
具体的な取組・成果

① 女性が働きやすい職場環境の整備によるジェンダーレスでの競争力向上

当社では、快適なトイレや更衣室の整備を行い、女性社員が働きやすい環境づくりに注力しています。このような環境整備により、製造業や技術業界におけるイメージを一新し、より多くの女性が専門的なものづくりに参入しやすくすることで競争力強化につなげています。さらに、産休・育休の取得促進と復職支援制度を充実させることで、出産や育児を経てもキャリアを継続できる環境を提供しています。これは、労働力不足が深刻な業界において、多様な人材を有効活用し、長期的な人材確保を図るための重要な施策です。これにより、優秀な女性人材の離職を防ぎ、企業独自のノウハウの源泉である知識と技術力の蓄積につなげています。

② デジタル技術活用による標準化とイノベーション創出

当社では、熟練技術のデジタル技術を活用した標準化を進め、非属人的な生産プロセス体制を構築しています。これにより、女性を含む多様な人材が高度な技術業務に従事できる仕組みをつくり、人手不足への対応を図っています。具体的には、CAD/CAMやシミュレーションプログラムを活用し、データ主導の生産体制を構築。これにより、複雑な加工業務もデジタル技術によって標準化され、会社全体の技術水準向上につなげています。特に、女性社員がこれまでの技術的ハードルを越えて高度な加工プログラムの制作や製品開発に参加する機会が増え、新たな価値創造が進んでいます。こうした加工プログラム製作での価値創造により、加工プロセスの効率化と品質向上を実現しイノベーションにつなげています。これらの取組は、技術基盤を強化し、グローバル市場における競争力を向上させ、ひいては社会の技術革新と経済の活性化に貢献するものです。



③ 風通しの良い組織風土で価値創造

当社では、社員同士のコミュニケーションを重視し、風通しの良い組織風土を醸成することで、働きがいのある職場を形成しています。これにより、社員個々の多様な意見が尊重・反映され、会社全体で革新的なアイデアが生まれやすい環境としています。各部署の会議やリーダーミーティングには積極的に女性社員が参加し、組織の意思決定に女性の視点を取り入れています。これにより、多様な考え方やアイデアが企業の戦略に反映され、柔軟で創造的な組織運営を実現しています。女性の視点を取り入れた意思決定は、より多様なニーズに対応でき、顧客満足度や製品品質の向上に繋がるため、業界の競争力を高める要因となっています。さらに、和気あいあいとしたランチタイムを通じて、リラックスした環境での交流を促進。これにより、異なる職種や立場の社員同士が気軽に意見交換を行い、新たな発想や協力関係が生まれる土壌が育まれています。こうしたコミュニケーションの活発化は、当社の創造力を高める要素となっています。



当社にとってのSDGsビジョン

私たちのSDGsビジョンは、IDGsに基づく「人と技術の成長」により、持続可能な社会に貢献することです。女性活躍推進やデジタル技術活用により、多様な人材が共に成長できる職場環境を整備します。成長プロセスを確立し競争力を強化することで、VUCA時代に柔軟に対応し持続可能な未来を目指します。

今後の展望と求めるパートナー像

ものづくりにワクワク感を持ち、「できない」理由ではなく「できる」ようにするための策と一緒に考えていける企業と協調してパートナーと新たな価値を創造し、ともに成長を目指します。



エスビック株式会社

「新たな都市空間の創造」と
「豊かな住環境の提供」を実現し
より多く社会貢献を



高崎市

住 所・・・高崎市綿貫町1729-5
T E L・・・027-384-4190
U R L・・・<https://www.s-bic.co.jp/>
代表者・・・柳澤 佳雄
設 立・・・1953年8月27日
資本金・・・100,000千円
従業員・・・385名

WEBサイト



事業者紹介

当社は創業73年の歴史と、業界トップクラスの生産・販売力を持つコンクリートブロックメーカーです。エスビックグループでは、コンクリートブロックやエクステリア商品の開発・製造・販売・物流までを一貫して手がけています。

エスビックは、「快適な夢のある生活環境」を提供することで、人々をわくわくさせ、社員が誇りを持ち安心して働ける会社を目指します。

当社では持続可能な社会に向けて、以下の3つの分野で取組をおこなっています。

- ①社内環境と社員の豊かさの向上への取組
- ②災害に強く、安心・安全に暮らせるまちづくり
- ③循環型社会への貢献

経緯・背景

コンクリート製品のCO₂排出量は、セメント製造時のCO₂排出量による影響が大きいたことが知られています。この避けて通れない課題に取り組むべく、サプライチェーン排出量の算定を行いました。

2022年9月、エスビックはコンクリートブロック業界で初めて「中小企業SBT」認定を取得しました。

エスビックは温室効果ガスの排出量（Scope1とScope2の合計値）を、2030年に2018年度比50%削減を目標に設定し、全社で取り組んでいます。

循環型社会の実現に向けて エコセメント等の積極的利用 廃棄物リサイクルも導入

具体的な取組・成果

- ・安全運転励行を目的とした運行管理システムを導入した結果、急加速・急減速などの減少により、交通事故発生件数が減少しました。また、低燃費車両導入と併用し、平均燃費が約37%向上しました。
- ・社外のエクステリア施工者やセールスエンジニアに対し、正しい施工知識の教育を行っています。
- ・ブロックの原材料として、ゴミの焼却灰をケミカルリサイクルした「エコセメント」を積極的に使用。2023年のエコセメント使用量は約24,000tで、これは約100万人が1年間に出すゴミを再利用していることに相当します。
- ・鉄製造時の副産物である「高炉スラグ微粉末」をセメントの一部と置換して使用。2023年には約18,000tの高炉スラグ微粉末を使用し、約13,000tのCO₂排出量を削減しました。また、一部の製品には熔融スラグ骨材（一般廃棄物の焼却灰から作られた再生骨材）を使用しています。
- ・雨水を地下浸透する「透水性インターロッキングブロック」により、集中豪雨の冠水抑制に寄与しています。
- ・芝などを植生させて緑の面積を増やす「植生用インターロッキングブロック」により、地表面の温度上昇を抑制しています。



- ・自家消費型太陽光システムを自社工場の屋根に導入。今後も他の工場や自社施設に順次導入していく予定です。

- ・環境への取組を行ってきたことでエスビックの製品は、CO₂排出量を削減できています。例えばあるコンクリートブロックでは、同じ重さの一般的なセメント製品と比較して、CO₂排出量を約60%削減できています。



当社にとってのSDGsビジョン

気候変動に具体的な対策を施すことで、住み続けられるまちづくりが実現でき、快適な夢のある生活環境を提供することで、人々をわくわくさせ、社員が誇りを持ち安心して働ける会社を目指します。

そのために社員一人一人が現場レベルで取り組むことを考え、環境も社会も経済もより良くしていく運動に邁進します。

今後の展望と求めるパートナー像

エスビックでは、持続可能な社会に向けて環境に配慮した製品を生産しています。当社では、事業活動における温室効果ガスの排出削減を最重要課題として位置づけ、CO₂排出量の削減に全社で取り組んでいます。脱炭素社会、および炭素循環型社会の実現のため、技術・製品開発に取り組めるパートナーを求めています。



Office 刃-YAIBA-

廃棄される素材に
新しい価値とアイデアを加え
「売れる」を創る

所在地 高崎市

住所・・・高崎市石原町1978-10

TEL・・・090-4829-1319

URL・・・https://yaiba.biz/

代表者・・・木樽 浩之

設立・・・2022年5月6日

従業員・・・1名

WEBサイト



事業者紹介

「売れる」を創る仕掛け人として、PRやマーケティングの事業をしています。

群馬の伝統や文化の斜陽化する現状に着目し、新しい息吹を与え継承するアップサイクル事業を展開。大量生産、大量消費による廃棄物多量化を食い止める活動を進めています。

また、多様性の現代に向けた新事業として、差別のない世の中を創るためピンクリボン活動を通じて、温泉王国、ぐんまを真のリトリートの聖地にする活動も進めています。

経緯・背景

群馬県内には桐生織りや刺繍など古くから続く伝統や技術だけでなく、インテリアやアパレルなどの加工工場も多く点在します。製造すれば製造するほど廃棄される素材が増えます。そういった伝統や優れた技術が廃棄されることはもったいないだけではなく、大きな損失となってしまいます。そこで廃棄される素材に新しい価値とアイデアを加え、形を変えながら伝統や文化を残していくプロジェクトとなります。

また、群馬県のごみ排出量は令和2年の時点で全国ワースト6位。これは群馬に古くから続く伝統素材においても同じことです。この毎日出るごみに新たな価値を与えてアップサイクルした商品開発ができれば、ごみを減らすことだけでなく、新しい産業としても成り立つのではないかと考えました。

群馬の伝統や文化を継承する
アップサイクル事業で
未来につなげていく

具体的な取組・成果

着物や帯を作る際に出る端材を活用しトートバッグやサコッシュなどを作成。また、着なくなった着物をジャケットやアロハなどにリメイクして現代でも気軽に着られる洋装としても生まれ変わらせました。

また不要になった着物や帯を引き取り、新しい商品としてリメイクすることで、思い出を着ていただくことができます。

アップサイクルする素材は和物だけでなく、ソファに使われるレザーや珈琲豆を入れる麻袋などでバッグも制作しています。最近ではスポーツチームの旧ユニフォームの再利用の依頼も増えて、歴史や思い出を未来に紡ぐをテーマに事業が広がっております。

モノを作るには時間も労力も資金もかかります。それらを簡単に廃棄するという考えを切り替えることにより、脱炭素カーボンニュートラルの世界が自然に広がります。

また、この事業は廃棄される無駄をなくすだけでなく、斜陽産業となってしまった繊維産業に新たな生産性を生んでいきます。今はまだ小さいレベルではありますが、徐々に色々な産業にも刺激を与えて広がっていくと思います。



当社にとってのSDGsビジョン

SDGsが叫ばれて大手企業も取り組んでおりますが、世界的に見ると日本の順位は高くありません。

それらを問うと、何をしたいかわからないという声も聴きます。

そこで、こういうこともSDGsなんだと前例を示し、他社の見本となる活動を進めています。

今後の展望と求めるパートナー像

群馬の伝統や文化を継承しようとする全ての方に向けて。変化を恐れず、形を変えて伝統を残すことが重要です。良いものを作っても売れない時代です。腕が良くても売れません。表現力や発信力を身に付けてこそ未来につながると確信しております。



株式会社グッドカルチャーズ

サステナブルな素材と 地域の職人技術を活用した オリジナルグッズを開発



大泉町

住 所・・・ 邑楽郡大泉町吉田1221-1

T E L・・・ 0276-57-8688

U R L・・・ <https://goodcultures.jp/>

代表者・・・ 三浦 英直

設 立・・・ 2020年4月1日

資本金・・・ 8,000千円

従業員・・・ 16名

WEBサイト



事業者紹介

当社は、企業の文化形成をサポートする高品質なオリジナルグッズ制作サービス「CultureGoods」を運営しています。当社は、「想いを乗せたグッズ」を通じて、社員一人ひとりが企業のビジョンや価値観に共感し、組織の一体感を醸成できるよう支援しています。サステナブルな素材と地域の職人技術を活用することで、環境に配慮しながら企業の理念を表現し、持続可能な未来の実現に貢献しています。さらに、地域との連携を大切にし、社会に価値を届けるエコフレンドリーなサービスを展開しています。

経緯・背景

当社は、代表の三浦英直が凸版印刷、リクルートでの経験を経て、父が経営する印刷会社を継いだことから始まりました。リクルートで組織の一体感が企業にもたらす好影響を実感し、「想いを乗せたグッズ」を通じて、企業文化を豊かにする重要性を深く感じるようになりました。その経験から、印刷会社の強みを最大限に活用したグッズ領域のビジネスを着想。2020年、共同創業者と共に、企業のエンゲージメントを高める高品質なグッズ制作を手軽に提供できる「CultureGoods」を立ち上げました。現在、組織の一体感を育むグッズ制作を通じて、持続可能な未来に貢献することを目指しています。

廃棄インクを再利用した 「サステナブラック」で 環境負荷の低減を目指す

具体的な取組・成果

【独自の技術開発】

「CultureGoods」サービスは、廃棄を最小限に抑える高品質なグッズ制作を行っています。具体的な取組として、廃棄インクを再利用した独自開発の「サステナブラック」（商標登録済）の活用をお客様にご提案し、企業のエコ活動に貢献するとともに、環境負荷を軽減しています。このインクは、余ったカラーインクを混ぜ合わせ、限りなく黒に近い再生インクとして利用するものです。



【1% for the Planetへの参加】

当社は、グッズ制作を通してより良い地球環境をつくるため、売上1%以上を環境保護団体に寄付する「1% for the Planet」に加入しています。私たちは1%programを通して、フィリピンでマングローブ育成を行っているNPOを支援しています。この活動を通して、グッズ制作を単なるビジネスとしてではなく、地球環境に配慮した貢献活動へと変えています。

【B Corp認証への挑戦】

当社は2021年5月に「B Corp認証」を申請し、厳しい審査を経て認証を取得しました。社会に貢献するサステナブルな企業だけに与えられるB Corp認証は、環境・社会・ガバナンス(ESG)において高い基準を満たす企業のみが得られる国際的な認証です。日本ではまだ取得企業が少ないなか、当社のサステナブルな取組が評価されました。これにより、さらに透明性の高い事業運営と持続可能な社会へのコミットメントを示すことを目指しています。

【サステナブルなパッケージング】

当社は、グッズの制作だけでなく、配送やパッケージングにおいても環境負荷を軽減するための取組を進めています。具体的には、再生紙や生分解性素材を活用したパッケージの導入、梱包材のプラスチックフリー化を推進し、環境にやさしい配送システムの確立を目指しています。

【地域社会への貢献】

サステナブルなグッズ制作を通して、日本の加工技術の伝承や職人への継続的な雇用機会、適正価格での仕事を提供することで、技術者たちが誇りを持って働ける環境を整備し、地域の経済を支えています。現在、群馬県内での社会活動も予定しており、地域住民と連携したワークショップの開催や、地元の自然保護活動への参加を通じて、地域コミュニティの活性化にも力を入れる予定です。

当社にとってのSDGsビジョン

当社のSDGsビジョンは、「環境に配慮しながら、企業の文化と持続可能な未来の架け橋となること」です。グッズ制作を通じて企業文化を支えるだけでなく、サステナブルな素材の活用や環境保護への具体的な取組により、未来の世代へより良い地球環境を引き継ぐことを目指しています。

今後の展望と求めるパートナー像

今後は、さらなるサステナブルな技術開発や、グッズ制作を通じたSDGsアクションを推進してまいります。新たな技術やアイデアを共有し合えるパートナー、グッズ制作を通して価値観・想いを伝えたい企業など、さまざまな連携を図りたいと考えています。



群馬合金株式会社

環境配慮型 ダイカスト工場を目指し ダイカストで未来を創る



伊勢崎市

住 所・・・伊勢崎市境東新井1048-19

T E L・・・0270-76-3501

U R L・・・http://www.gkg-gr.com

代表者・・・六本木 純一

設 立・・・1947年3月28日

資本金・・・50,000千円

従業員・・・125名

WEBサイト



事業者紹介

当社は1947年の創業以来、ダイカストのパイオニア的存在として、国内外へ輸送用部品を中心とした製品を長年にわたり提供し続けております。

1995年にはフィリピンへ海外進出、2011年に金型メーカーをグループ化、2015年からフィリピンで2拠点目となる工場を取得、2019年には伊勢崎市内に第二工場を操業開始しております。

群馬合金グループでは、金型設計・製作・鋳造・バリ取り仕上げ・切削加工・組立までを一貫で生産しており、高品質な製品をお客様に安定提供しております。今後も可能性豊かなダイカスト分野でお客様に選ばれ続ける『100年企業』を目指して活動してまいります。

経緯・背景

環境問題が深刻化する中、企業が社会的役割を果たすことが求められています。ダイカスト産業では、多くのエネルギーを使用することから、生産工程におけるエネルギー使用量の最適化を進めています。

改善活動や省エネ生産設備の導入により「世界で一番きれいで地球に優しいダイカスト工場」を目指して持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

「世界で一番きれいで地球にやさしいダイカスト工場」を目指し社員全員で改善活動を継続

具体的な取組・成果

- 環境配慮：CO₂排出削減取組
 - ・省エネ診断を実施。診断結果から対策を推進しています。
 - ・高効率エアーコンプレッサーの導入（本社工場2023年、第二工場2022年導入）
【効果】本社工場：CO₂削減効果13.2t-CO₂/年
第二工場：117.3t-CO₂/年
 - ・LED照明の導入
【効果】本社工場：11.6t-CO₂/年
第二工場：22.5t-CO₂/年
 - ・工場エアー漏れ改善活動の実施
エアーリークビューワーを使用し工場内のエアー漏れ箇所を特定。エアー漏れ箇所対策を進めコンプレッサーの使用電力量を削減しています。
【効果】11t-CO₂/年
 - ・製品洗浄液の再利用による廃液量の削減（第二工場）
【効果】7,900ℓ/年（ドラム缶約40本分）
 - ・社内改善活動「C-TPM活動、10PJ活動」を本業のエコ活動として推進
現場主体で改善活動を社員全員で継続し、生産ロス改善に努めることで製品1個あたりの使用エネルギー量を削減しています。



エアー漏れ調査



改善活動報告会

- 社会課題解決、地域貢献／地域共創
 - ・障害者就業施設（NPO法人）への支援（トイレトペーパーの購入）
 - ・フィリピン外国人技能実習生、特定技能外国人の採用（2024年11月現在 実習生23名、特定技能12名）
 - ・地域住民とのコミュニケーション手段として外国人社員向けに社内日本語勉強会を開催
 - ・古着バザーの開催



日本語勉強会

- 社員の働きがい向上やダイバーシティへの取組
 - ・ハラスメント講習や社内勉強会を開催し働きやすい職場環境の整備をおこなっています。

当社にとってのSDGsビジョン

「世界で一番きれいで地球にやさしいダイカスト工場」を目指して、子供たちに明るい未来を継承するために、製造業として環境に配慮した生産工程の開発や、設計に取り組みます。「環境配慮型製品」の生産に努め、日々の改善を積み重ねながら、持続可能な社会の実現に向け取り組み続けます。

当社の創業の精神「みんな」で、明るい未来と100年企業を目指してまいります。

今後の展望と求めるパートナー像

社員一丸となりモノづくりを通して持続可能な社会の実現に向けてチャレンジしていきます。



相模屋食料株式会社

「おから」を利用した再生素材で 廃棄量の持続的な削減 プラスチック削減にも取り組む



前橋市

住 所・・・前橋市鳥取町123

T E L・・・027-269-2345

U R L・・・https://sagamiya-kk.co.jp/

代表者・・・江原 寛一(代表取締役会長)

鳥越 淳司(代表取締役社長)

設 立・・・1951年10月

資本金・・・80,000千円

従業員・・・1,300名(グループ会社合計)

WEBサイト



事業者紹介

当社は前橋市に本社を置き、群馬県内に7工場を有する1951年創業の老舗豆腐メーカーです。伝統食品「おとうふ」の文化を守り、未来をつくることを使命に日々取り組んでおり、木綿や絹など基本のおとうふのおいしさを追求し続けるとともに、「ザクとうふ」「うにのようなビヨンドとうふ」など新規性の高い商品を開発。現代の多様なニーズに応える数々のヒット商品により成長を続ける、豆腐業界のリーディングカンパニーです。

また、経営継続が困難な豆腐メーカー12社をグループ化して救済・再建に取り組み、全国各地の独自の豆腐文化と地域の雇用を守っております。

経緯・背景

豆腐の製造工程から排出される副産物の「おから」は、食べられるものであるにも関わらず、そのほとんどが産業廃棄物として処理されており、長年、豆腐業界の大きな課題でした。

当社ではおからの廃棄量削減に早くから取り組んできましたが、年間約56千tも出るおからは、食用や飼料、猫砂などに再利用しても全てを使いきれず、1/3程度を産業廃棄物として処分していました。

そこで、おからを利用した再生素材に着目。幅広い製品の素材として活用可能であることから、おから廃棄量の持続的な削減が期待できる上、プラスチック削減も実現するものと考え、開発に取り組みしました。

産官学連携で 新たな研究に取り組み 広く環境改善に貢献

具体的な取組・成果

当社は植物性たんぱく質の代表格である大豆からつくる最もメジャーな食品「おとうふ」のメーカーとして、環境にやさしい植物性100%のヘルシーな食品おとうふの魅力を伝える商品をつくり続け、食卓に届けてきました。おとうふの新たな魅力を創り出し、現代の多様な食生活に対応した商品を提供し続けることで健康的な食生活の推進に取り組んでおります。

そのおとうふの製造過程で排出される「おから」を再利用し、廃棄物として処理される量を削減する取組として、現在、おからから再生素材をつくる取組に最も力を入れています。おからを活用してプラスチック素材や繊維材などの新たな工業用素材へのリサイクルを進め、製品としての実用化を目指すものです。

2018年から取組を開始し、約6年の研究を経て試行錯誤の結果、合成樹脂のポリプロピレンにおからが含まれる『TOFU RESIN』(粒状のプラスチック)の開発に成功。それを成形して51%のおからが含まれる植木鉢の「おからポット」を製造し、大手花きメーカー様への販売にこぎつけました。また、合成樹脂のポリエチレンにおからを含ませた「前橋市指定ごみ袋」を作製し、すでに使用に至っております。

「おからポット」「ごみ袋」以外にも『TOFU RESIN』を使用したベンチを開発、前橋市の公園で2023年から使用されており、いずれもおから廃棄量削減とプラスチック削減を実現した製品として実用化されております。

今後は園芸用品、文具等への展開も進めており、市場への浸透を図っております。



前橋市指定ごみ袋



おから配合レジ袋

また、おからを活用した繊維材の実用化についても、産・官・学との共同研究で取組を進めております。環境に配慮したハイブリッドな『TOFU RESIN』はおからの廃棄処分を行わないことで、食品ロスやCO₂削減を実現し、環境改善に貢献しております。

おとうふの新たな魅力をつくり出し、おとうふの世界を広げることで、大豆からおからまで余すことなく資源を有効活用し、循環社会の実現と食による健康促進を顕現するとともに、新しい価値観も付加しながら日本の伝統食品であるおとうふの未来をつくりだし、世界に向けて広げております。



おからフラワーポット

当社にとってのSDGsビジョン

持続可能な食品(サステナブルフード)として、大豆からつくられる日本伝統のサステナブルフード「おとうふ」の魅力をより多くの方に感じていただける商品づくりと情報の発信にこれからも一層努めてまいります。

また、「つくる責任 つかう責任」として「おから」の再利用と再生素材としての実用化をいっそう進めてまいります。

今後の展望と求めるパートナー像

「おから」再利用の実用化はプラスチック素材、繊維素材、その他の工業素材としてさらに拡大してまいります。環境に配慮し、持続可能な開発目標「海の豊かさを守る」、「陸の豊かさを守る」に共感しともに歩んでいただけるパートナーを求めてまいります。



サンデン・リテールシステム株式会社

温度管理技術を基盤とした グローバルな事業展開で 持続可能な社会を目指す



前橋市

住 所・・・前橋市粕川町中之沢7(赤城事業所)
東京都墨田区錦糸1-2-4
アルカウエスト8F(本社)
T E L・・・027-280-9800(赤城事業所)
U R L・・・<https://sanden-rs.com/>
代表者・・・森 益哉
設 立・・・2019年7月29日
資本金・・・100,000千円
従業員・・・738名 ※2024年12月末時点

WEBサイト



事業者紹介

当社はこれまで挑戦と改革の企業文化を背景に「冷やす・あたためる」をコア技術とし、人々の豊かな生活を支えることを目的にグローバルに事業を展開してきました。

繊細に微妙な温度まで調整することができる精密温度管理の技術や長時間鮮度を保つことを可能にした鮮度保持技術、未来型の自動販売機をはじめ多方面に活用されている搬出技術を基軸とし、ITを最大限に活用したコールドチェーン事業を中心に、店舗システム事業、ロジスティック事業を積極的に展開しています。

経緯・背景

当社では、2021年4月に世の中の大きな変化に迅速に対応するべく、【SDGs経営】宣言が全社に発信されました。

【SDGs経営方針】

- ・新市場の開拓による事業機会の創出
⇒新商品活動
- ・環境対策による事業の持続的成長の確保
⇒環境対策
- ・働きやすい環境の確立による企業価値の向上
⇒働き方改革

上記方針に基づき、全社で活動を進めています。

技術開発・モノづくりを通して 社員がより健康的で 働きやすい職場に

具体的な取組・成果

- 新市場の開拓による事業機会の創出
⇒新商品活動
 - ◇フードロス削減
 - 【内容】冷凍自動販売機“ど冷えもん”開発・提案によるフードロス削減
 - 【効果】2021年2月の発売開始から約3年半で1万台達成
 - ◇IoT化による生活レベル向上
 - 【内容】クラウドシステム“RSクラウド”活用提案による販売・在庫管理等運用サポート
- 環境対策による事業の持続的成長の確保
⇒環境対策
 - ◇産業廃棄物低減
 - 【内容】生産拠点である“赤城事業所”にて、3つのワーキンググループを設立・活動
 - 【効果】上記活動により、原単位114kg/百万円であったものが、107kg/百万円に削減
※原単位の定義：原材料を百万円購入した際に出る廃棄量のこと
 - ◇産業、環境教育の場として活用
 - 【内容】県内外の小中学校工場見学、地元中学校インターン
 - 【効果】2023年度実績
来校数39校 来場者数2,956名
- 働きやすい環境の確立による企業価値の向上
⇒働き方改革
 - ◇SI(サンデン・イノベティブ)活動を推進
 - 【内容】毎月カイゼン活動優秀事例評価・表彰
 - 【効果】スピード感のあるカイゼン活動、評価により社員のモチベーション維持・向上
 - 【開催回数】58回
 - 【報告件数】1,984件
 - 【効果金額】1,641百万円
※2019年10月～2024年12月末時点
 - ◇ストレスチェック内容の分析と職場環境改善活動
 - 【内容】
 - ①ストレスチェック内のワークエンゲイジメントに関する項目について分析し、経年比較。各部門へフィードバックし、部門長と共に変化の内容について協議のうえ、必要な改善活動を実施。
 - ②2024年度より、アブセンティーズム・プレゼンティーズム・介護についてアンケートを開始。現状の生産性や課題を明確化し、今後の施策に繋げることで、更なる働き甲斐の向上を目指す。
 - アブセンティーズム：傷病による欠勤
プレゼンティーズム：出勤はしているものの、健康上の問題によって完全な業務パフォーマンスが出せない状況

- 【効果】
- ①職場環境改善活動を通じた、働く環境の整備を実施し、ストレスチェック結果により評価。
ワークエンゲイジメント：2022年→2023年では1.4ポイント上昇
職場の一体感：2022年→2023年では0.7ポイント上昇
 - ②現在測定を行っている最中の為、効果検証は今後実施。



クラウドシステム
“RSクラウド”
ロゴマーク

冷凍自動販売機“ど冷えもん”



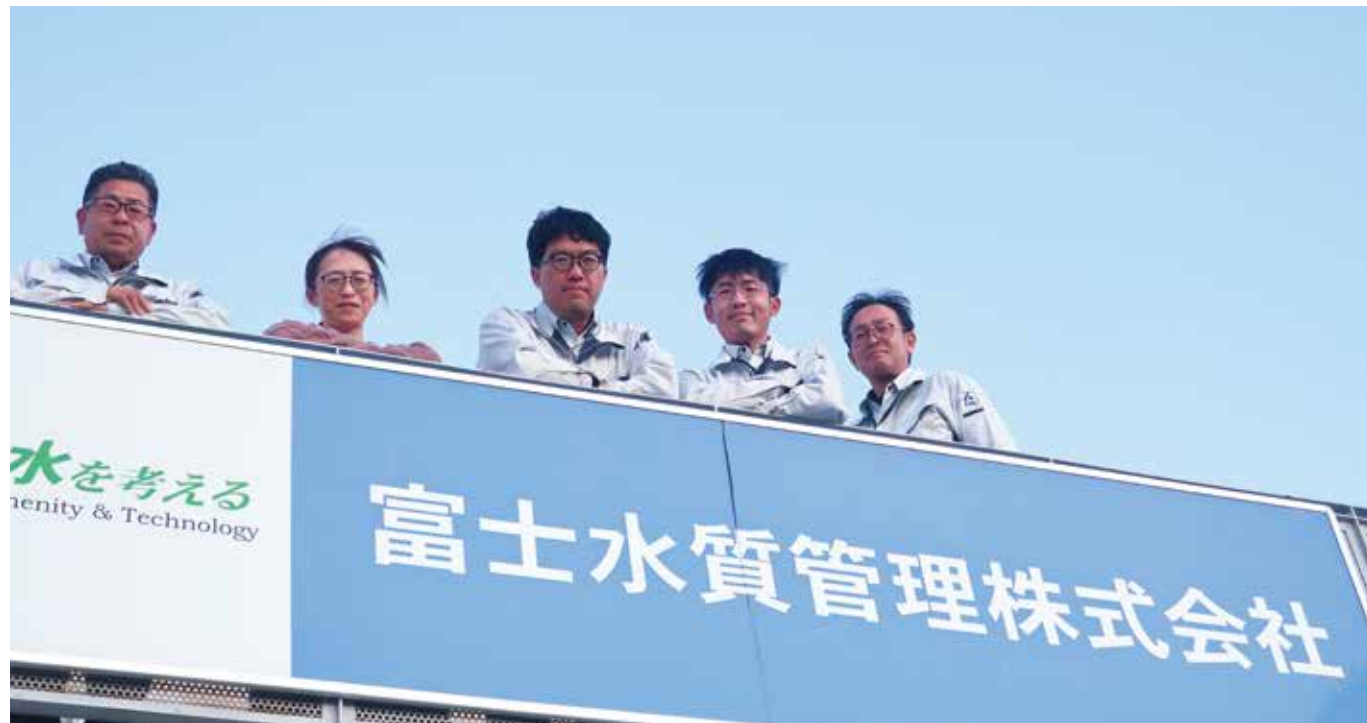
工場見学風景

当社にとってのSDGsビジョン

当社は国内はもちろんグローバル市場にむけて、社会を大きく変える起動力となり、人々の生活に無限の可能性を生み出すことのできる企業となることを目指し、「笑顔」と「活気」に溢れる社会を創っていきます。

今後の展望と求めるパートナー像

今後、社員が心身ともに、より健康的に働くことのできる企業づくりを行ってまいります。そして、技術開発・モノづくりを中心に社会問題解決に貢献し、社会から求められる企業として、成長できるよう邁進してまいります。



富士水質管理株式会社

水のプロフェッショナル集団として
環境と共生し
次世代に豊かな地球を引き継ぐ



玉村町

住 所・・・佐波郡玉村町飯塚354-9(群馬営業所)

T E L・・・0270-27-4804

U R L・・・<https://www.fuji-kanri.co.jp/>

代表者・・・白山 隆一

設 立・・・1974年12月24日

資本金・・・10,000千円

従業員・・・73名

WEBサイト



事業者紹介

富士水質管理株式会社は創業50年、関東甲信で暮らしを支える「水」に関するビジネスを行っています。特に浄化槽法で定められている、個人宅の浄化槽保守点検・改善提案などを通じて、安全な水の循環サイクルを構築。つまり「安全な水を地域に提供すること」に貢献しています。群馬県内においては、大型工場や飲食チェーンのほか公共施設や、個人宅の浄化槽点検も多数承っております。

経緯・背景

地球上で使える水は僅か0.01%しかありません。だから水は大切に使い、使った水はきれいにして循環(リサイクル)することが大事です。

当社は、マンション/商業ビル/公共施設/空港などの大型設備の給排水設備メンテナンスも行っています。暮らしや産業で使った水をそのまま海に流しては環境汚染に繋がります。施設が大きくなればなるほど、使った水をキレイにするために非常に高度な技術力や労力や資格が要求されるため、従業員に対して「資格取得費用の会社負担」を行うなど日々技術力を高めています。SDGsを意識するだけでなく行動に移している表れと考えています。

人と水との関わりを考え 水環境の活用・保全を通じて 持続可能な地域社会に

具体的な取組・成果

6. 安全な水とトイレを世界中に

当社が手掛ける浄化槽関連の保守点検・改善提案の数は年間で30,000件にもなり「安全な水を地域に提供すること」に大きく貢献しています。

また、お取引先の新入社員に対して「水を大切に使うこと」についての研修講義を無償で行うなど、着実な啓蒙活動にも尽力しています。



8. 働きがいも経済成長も

各エリアでの「働き方」に関する表彰制度を設けています。特にシニア層や女性技術者の採用と育成に注力しております。また、毎年105%程度の業績成長を維持しております。



14. 海の豊かさを守ろう

大規模施設の排水処理量は当然多く、使った水をそのまま海に流しては環境汚染に繋がります。当社は7,000件以上の施設のメンテナンスを承っております。また環境省「浄化槽システム」の脱炭素化推進事業には積極的に取り組んでいます。具体的には、浄化槽分野における脱炭素化の推進

に向けて、エネルギー効率の低い既設の中大型浄化槽について、最新型の高効率機器(高効率ブロウ等)への改修、先進的省エネ型浄化槽への交換、再生可能エネルギーを活用した浄化槽システムの導入を推進することにより、大幅なCO₂削減を図っています。



●表彰歴等

- ・東京都主催
多様な働き方の推進・DXを活用した生産性の高い働き方に取り組む企業を表彰する
Tokyo Future Work Award 2024 大賞受賞
- ・茨城県リスキリング推進企業表彰(令和6年)
- ・茨城県働き方改革優良企業(令和5年)
- ・かながわSDGsパートナー
- ・健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)

当社にとってのSDGsビジョン

人々の暮らしや産業活動に決して欠かすことのできない「水」。安全と安心を実現するプロフェッショナル集団として、地域の水資源の保全と、SDGsの使命の遂行に努めてまいります。私たちの業務は、設備の維持にとどまらず、環境と共生し、次世代に豊かな地球を引き継ぐ責任を果たすことを目指しています。

今後の展望と求めるパートナー像

群馬県内で培ったノウハウや実績を基に全国エリアへの展開を目指しております。

SDGs項目の6と14を中心に更に注力してまいります。

当社サービスとシナジーを発揮しそうなパートナー様を探しております。



株式会社ホンダモビリティ北関東

自動車業界が 環境に与える影響を重要視し 安心・安全なカーライフを提供



伊勢崎市

住 所・・・伊勢崎市田中島町1403-14

T E L・・・0270-30-3070

U R L・・・<https://www.hondamobility-kitakanto.co.jp/>

代表者・・・高倉 成之

設 立・・・2023年4月1日

資本金・・・180,000千円

従業員・・・1,270名

WEBサイト



事業者紹介

ホンダモビリティ北関東は、自動車の販売・整備を通じて、お客様に安心・安全なカーライフを提供しています。

地域に根差した企業として、環境への配慮や地域社会への貢献を積極的に推進しており、持続可能な社会づくりを目指しています。

当社は、人の健康維持と地球環境の保全に積極的に努め、省エネルギー・省資源・リサイクルの推進・廃棄物の削減を行い、お客様や地域社会に喜ばれるグリーンディーラーを目指します。

経緯・背景

近年、環境問題や社会的課題が注目される中、当社では、自動車業界が環境に与える影響を重要視し、これを最重要課題の一つと捉えています。持続可能な社会の実現に向け、SDGsへの取組を本格化しました。具体的には、省エネルギーの推進、リサイクル活動の強化、そして多様な人材が活躍できる環境整備に取り組んでいます。

これらの取組を通じてSDGsを企業戦略に取り入れ、持続可能な社会の実現に向けて、地域社会と地球環境の両方に貢献することを目指しています。

自動車の販売・整備を通じて 人の健康の維持と地球環境の 保全に積極的に寄与

具体的な取組・成果

- 循環型資源利用
 - ・車両整備時の廃棄物リサイクルや、使用済みオイル・部品の適切な廃棄処理を実施しています。これにより、廃棄物の削減と資源の再利用を促進しています。
- 地域貢献
 - ・交通安全教室や地域清掃活動を定期的に行っています。
- 低公害車の導入
 - ・試乗車、社用車、代車を最新の低公害車（HV、EV）に積極的に入れ替え、CO₂排出量の削減を推進。2030年までに自社名義車両の80%以上を低公害車にすることを目標としています。
- ペーパーレス化
 - ・保険手続きなどをクラウド化し、ペーパーレス化を進めています。2030年までには保険手続等クラウドによる報告集計、申請化などペーパーレス業務運営100%を目指しています。
- 3Rの実施
 - ・お客様の希望に沿ったリサイクルパーツを使った自動車修理と再生パーツへの資源共有を実施しています。
 - ・ビニール、プラスチックごみ削減に向け、カタログ入れの紙袋化を行っています。
- 環境配慮製品
 - ・本田技研工業(株)と連携し省エネルギー製品の市場品質情報をフィードバックしています。
- 多様な人材の雇用・ダイバーシティ経営の促進
 - ・外国人労働者の雇用を促進し、毎年2名以上の採用を目標としています。また労働環境の整備や研修の導入などを積極的に行っています。
 - ・障がいの種類や程度に応じた安全管理や安全確保のための施設等の整備、職場環境の改善を行っています。
 - ・一般事業主行動計画に基づき、子育てや介護等と仕事を両立できる職場環境整備を図っています。(例 短時間勤務制度)
- 差別・ハラスメント禁止
 - ・ハラスメント研修の実施やハラスメント相談窓口を設置しています。
 - ・雇用、教育、昇進、登用、福利厚生などあらゆる雇用条件で差別しない体制を構築し、経営トップが積極的に関与しています。

- 労働安全衛生
 - ・労使で安全衛生委員会(毎月)を実施し、内容を社内通達、WEB共有サーバー等を活用し周知徹底を行っています。
- メンタルヘルス
 - ・メンタルヘルスに関する職場の状況把握を含めた調査を全社員に年一回実施しています。
 - ・メンタルヘルスに対応した休職規程等の整備を行っています。
 - ・社内野球チームやN-ONEワンメークレースへの参加で社内コミュニケーションを促進しています。
- 健康経営
 - ・年一回の健康診断を全社員に実施しています。
 - ・インフルエンザワクチン接種を全従業員に促し費用補助をしています。
- 人財育成
 - ・職務や役割に応じた研修体系を構築しています。



当社にとってのSDGsビジョン

当社は、地球環境の保全を最重要課題のひとつと捉え、自動車の販売・整備を通じて、人の健康の維持と地球環境の保全に積極的に努め、省エネルギー、省資源、リサイクルの推進、廃棄物の削減を行い、お客様や地域社会に喜ばれるグリーンディーラーを目指します。

今後の展望と求めるパートナー像

当社は、「with～あなたと、地域と、ともに歩む～」をコーポレートスローガンに掲げています。今後も地域に根差した企業として、環境への配慮や地域社会への貢献を積極的に推進し、持続可能な社会づくりを目指してまいります。

求めるパートナー像は持続可能な社会づくりに共感し、共に成長しながら未来をより良いものにするための協力関係を築くことができたらと考えております。



株式会社マック

再生エネルギー資材の販売から カーボンニュートラルに取り組み 環境負荷の軽減に挑戦



高崎市

住 所・・・高崎市砂賀町98武内ビル2F
T E L・・・027-329-5993
U R L・・・<https://newton-japan.com/>
代表者・・・櫻井 信彦
設 立・・・1998年12月21日
資本金・・・3,000千円
従業員・・・4名

WEBサイト



事業者紹介

創業26期目を迎えました。創業当初の商材は石材から始まり、時代の変化に柔軟に対応して、常に新しい挑戦に取り組んでまいりました。

この間、プロゴルファー等のアクセサリグッズやカー用品アクセサリの制作も手掛け、近年では再生可能エネルギーの資材販売と設備工事に取り組んでまいりました。

そして現在はSDGs、カーボンニュートラルへの取組として、電力を全く使わない自動ドア「ニュートン」の国内外への販売普及に取り組んでおります。

経緯・背景

これまで太陽光発電資材をはじめとする自然エネルギー関連資材の輸入販売や設置工事を通じて、再生可能エネルギーの普及に取り組んでまいりました。これらの活動を通じて、地球環境保護の重要性を実感し、カーボンニュートラルへの取組が不可欠であると認識しました。現在では、電力を使わない自動ドア「ニュートン」の普及を含め、環境負荷を軽減し持続可能な社会の実現に向けた新たな挑戦を進めています。

環境配慮型製品を通じて 持続可能な社会の実現を目指す

具体的な取組・成果

持続可能な社会の実現を目指し、環境負荷の低減への取組として、現在、電力を一切使用しない自動ドア「ニュートン」の普及に注力しています。「ニュートン」は国内特許を取得しており、さらに世界12カ国で特許を取得した革新的な技術を搭載しています。このドアは、電気を使用せずに自動で開閉する仕組みを実現し、従来の電動自動ドアと比較して省エネルギー性に優れるだけでなく、災害などの停電時にも機能し続けるため、防災面でも高い評価を得ています。また、安全性も実証されており、地方自治体や公共施設を中心に数多くの設置実績があります。

こうした技術を国内外に広めることで、自然エネルギーの活用や再生可能エネルギーの重要性への理解を促進するとともに、SDGsやカーボンニュートラルの目標達成に貢献したいと考えています。「ニュートン」をはじめとする環境配慮型製品を通じて、未来の社会に向けた新たな価値を提供し続け、持続可能な社会の実現を目指し、環境負荷の低減に取り組んでいます。



当社にとってのSDGsビジョン

事業活動を通じて社会貢献することを目指し、環境負荷の低減や社会貢献活動に積極的に邁進します。SDGs、カーボンニュートラルへの取組は日本国内に留まりません。世界に向けてより良い日本製商材の普及活動に努めてまいります。

今後の展望と求めるパートナー像

海外支店を有する企業様、建設会社様、設計会社様、防災関連企業様。



三峰工業株式会社

「廃棄物処理」から「再生資源化」へ ケミカルリサイクルで 社会のニーズに応える



所在地 前橋市

住所・・・前橋市東片貝町77

TEL・・・027-226-6681

URL・・・<https://www.mitumine-kk.co.jp/>

代表者・・・村上 慎一

設立・・・1977年6月6日

資本金・・・10,000千円

従業員・・・10名

WEBサイト



事業紹介

当社は燃焼装置や熱分解処理装置、乾燥機の設計・製作・施工を主な事業としております。

当社の熱分解処理装置でケミカルリサイクルすることにより、今まで廃棄物として処理されていた廃プラスチックや樹脂・ゴム廃棄物から液体燃料を製造することができ、また固形残渣も燃料として利用することが可能となりました。

付加価値の高い、安全・安価な燃料の製造にケミカルリサイクルを通じて取り組んでいます。

経緯・背景

原油価格の高騰や海外のリサイクルに適さない汚れたプラスチック等の受入れが規制されたことから、廃プラスチック、樹脂・ゴム廃棄物の処理コストは高騰しており、今後もこの傾向は続くと考えられています。

そのような背景から廃プラスチック、樹脂・ゴム廃棄物のケミカルリサイクル（熱分解による液体燃料化）に関する相談が多く寄せられるようになりました。当社の熱分解処理装置を用いて検討したところ、液体・固形燃料が製造できることを確認できました。

「廃棄物処理」から「再生資源化」への有効利用の社会ニーズの高まりに貢献できるものと考えております。

研究機関との連携・支援で 再生可能な資源を 循環利用できる社会を目指す

具体的な取組・成果

- 300℃で脱塩運転と400℃の2段階熱分解運転により、PVC複合の廃棄物にも対応するプロセスを採用しています。
- 熱分解されたガスは、2つの異なる凝縮温度を持つ凝縮器を通過し、重質油と軽質油に分離されます。蒸留設備を持たずに重質油と軽質油が生成されます。
- 運転費用、設備投資金額を抑えるために、シンプルな設計、汎用品をできるだけ採用することで、低コスト運転、高稼働率を達成。触媒及び特殊な機器を使用しません。



熱分解処理装置



加圧水熱分解処理装置



廃プラスチックより得られた液体燃料

当社にとってのSDGsビジョン

廃プラスチック、樹脂・ゴム廃棄物には数多くの種類があり、その熱分解挙動や液体燃料製造に適した熱処理条件に関して、まだまだデータの蓄積が不可欠です。

熱分解処理技術の確立は単に当社の競争力向上やビジネス創出につながるだけでなく、CO₂排出削減に貢献でき、国や群馬県のグリーン転換（GX）政策の方向性にも合致すると考えています。

今後も社会課題「温室効果ガス削減」の解決に向けてケミカルリサイクルを推進してまいります。

今後の展望と求めるパートナー像

熱分解によって生成される固形残渣、液体燃料及びガス類の利用価値の決定には評価分析は不可欠です。

研究機関と連携し、支援を受けながら、再生可能な資源（プラスチック、樹脂、ゴムなど）が循環利用できる社会を目指してまいります。